

復興支援プログラムを活用した福島県の酪農家による 福島復興牧場への支援

(農林中央金庫)

【概要】

農林中央金庫は、東日本大震災により被害を受けた農林水産業者の復興を支援するために平成23年度に創設した「復興支援プログラム」を活用し、原発事故等により避難を余儀なくされた酪農家の共同運営による「福島復興牧場」を金融面と人材育成面で支援。

背景と経緯

農林中央金庫は、東日本大震災により甚大な被害を受けた農林水産業者の復興を全力かつ多面的に支援するため、平成23年度に「復興支援プログラム」を創設。復興ローン、復興ファンドによる出融資、JA（農協）・JF（漁協）災害資金の利子補給、リース料助成などの金融支援に加え、営農・営漁に必要な土壌改良剤・氷等の費用助成、地域の復興を促進する事業への費用助成など金融の枠を超え、被災地のニーズに則したきめ細やかな支援に取り組んでいる。

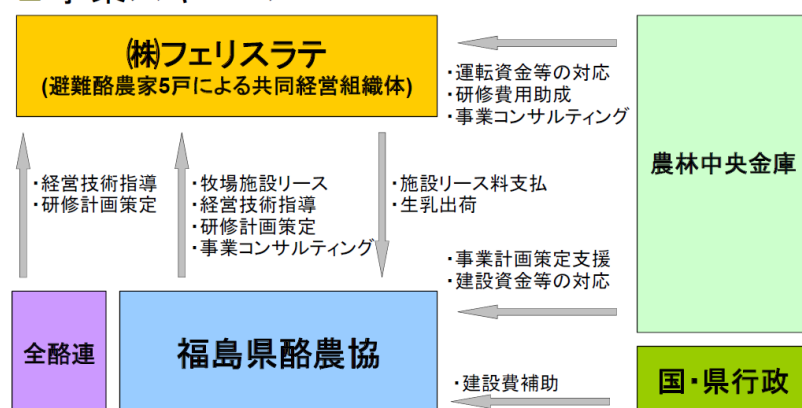
今回、当金庫が構想段階から積極的に関与した、福島県の酪農家による福島復興牧場への支援を紹介する。

具体的な取組

被災地の酪農経営者は、震災からおおよそ5年の歳月が経過したが、いまだ大半が避難休業を強いられている。この現状と酪農経営者自身の高齢化が進んでいる現状を踏まえ、福島県酪農業協同組合において、①大規模・共同経営による低コスト生産、労働条件の改善を図りつつ、②福島県の生乳生産基盤の回復（避難酪農家の営農再開）を図るため、「復興牧場構想」を計画し、避難休業中の酪農家を中心に参加を呼びかけを実施。

その結果、避難休業中の酪農家5戸が復興牧場構想に共鳴し、平成26年4月に共同経営組織(株)フェリスラテが設立された。

事業スキーム



当金庫は、資金対応として、福島県酪農協に対し、当牧場に関する設備、素牛導入を復興ローン、(株)フェリスラテに対し、長期のベース運転資金を復興ファンドで対応し、加えて、当社のフォークリフト等機材をリース料助成で対応した。

さらには、大規模・共同経営の実践に向けた先進地域への実地研修および専門家による実践研修等の費用助成などを通じ、開業に向けた支援を実施した。

取組の成果

当金庫の復興支援プログラム等を活用して、福島復興牧場は平成27年10月に稼働を開始した。避難した酪農家の営農再開が進まないなか、5人は乳牛500頭を上回る県内最大級の牧場経営にチャレンジする。

今回、福島復興牧場を共同経営する5人は「牧場を震災復興だけでなく、日本の新しい農業の進化系にしたい」との強い思いのもと、福島県酪農協の呼びかけに応じた。

当金庫は、この震災復興において、新たなビジネスモデルを構築した取組を金融面のみならず、研修費用の助成等についても支援を実施した。



写真 復興牧場の様子

今後の課題

復興牧場構想は、当金庫および酪農協系統が各団体の役割分担に基づき多面的に支援することで、大規模・共同経営方式での酪農経営を操業2年目から東北有数の規模で安定稼働させることを目指す。大規模・共同経営方式は、低コスト生産（農家所得向上）や労働条件改善（労働時間の短縮・休日の確保など）が期待されており、酪農家の高齢化・後継者不足等を見据えると、今後の酪農モデルの一つと考えられる。

今般の事業モデルが確立することで、他地域での大規模・共同経営方式での酪農経営を後押しし、その結果、競争力のある強い酪農経営が確立することが今後の課題となる。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① 大規模・共同経営方式の導入

支援実施のポイント② 金融機関と連携した事業計画策定

支援実施のポイント③ 酪農家の復興への志を実現させる各種支援の実施